

千葉動力車



11月30日 12月12日 敢然とストうちぬ!

当局、不誠実な態度に終始

動労千葉の 団結力 当局も接する!

ウソとひらき直り に終始し、当局

十一月三十日、正午、ストライキ当
該組合員は、本部指令にもとずき怒
りを胸に秘め、敢然とストライキに
突入した。

われわれと地域住民の切実な気持
・要求をことごとく無視する当局に
対し、強烈な“回答”をうち下した。

一人の落伍者もなく、団結を内固
めつつストに決起した組合員の目は
輝いている。その熱気をもって千葉
転支部はただちに千葉駅に登場し、
宣伝ビラまき決起。

それをやりきったWさんは、「批
判とか抗議がぶつたられると覚悟し
ていたんだけど逆だった。ガンバレ
と何人かから励まされすくく自信を
もった」と感想を語っていた。

また、ビラ(地方交通線切り捨て
反対)がかってなく良く読まれたと
いう報告も上っている。

地域住民も、動労千葉の要求・た
たかいに共感を寄せている。そのこ
とは、この間の市町村への“要請”
行動でも肌身で感じることができた。

今次ストライキは、このように反
合、解雇撤回、強制配転の現職復帰
の要求と住民の“地方線を切りすて
ないで”という思いを引受け、スト
ライキに立ちあがったことに大きな
意義があったといえる。

十二月「ダイ改」で、千葉支社の
とった態度・対応には際だつたもの
がある。この間の「日刊」で逐次報
告してきたとうり労務政策のみを最
優先し、業務遂行能力すら崩壊して
いる中で、「ダイ改」でのミスと無
知をさらけ出し、組合側にそれを糾
されるや今度はウソとひらき直り
その場をしのぐという態度に終始し
たことを決して忘れてはならないし
許してはならない。

われわれの今次ストは、こうした
当局の硬直しきつた管理機構を根幹
から揺さぶるものとして打ちぬかれ
たのである。

勇気者へ限りなく 勇気を与えよう

今次ストの意義は絶大なものがあ
る。そのことは、スト支援に駆けつ
けてくれたスロウ|自主の入江委員
長、三角東京労組交流センター代表
都革新の長谷川氏等の熱いムッセイ
ジに言いつくされていく。

「労働者が不況を理由に虫ケラの
ように首を切られている。ストで反
撃したくとも連合下でそれもなかな
か出来ない。動労千葉のスト決起は
勇気と希望を与えている。」
「多くの労働者も、やがては皆さ
んにつづいて立ち上がる。」と。

12・5 国鉄清算事業団闘争勝利 全国労働者総決起集会

指定列車・千葉3番木-4(後)
11時25分発(決)

に集まろう

94年全国闘争



長田総武支部長も、決意表明の中
で「腹をすえて、ずぶとく闘うかぎ
り必ず勝利を得る日が来る」とキッ
パリと言いきつてい途中に今次スト
の大きな意味を見ることが出来る。
この成果を十二・五集會に結実さ
せ、九四年の飛躍につなごう。
(スト報告の詳細は追って掲載)